



2



3



4



1

無病息災、大願成就、冷水あびて熱く疾走

Pick-Up 2

一関市・大東大原水かけ祭り

1 沿道から一斉に清め水を浴びる。その一瞬をカメラに納める写真愛好家も大勢訪れるのが祭りの特長／
 2 厄男、厄女のお祓い（おはらい）に同伴し、また、水かけで走られない年配者や女性に代わって、裸男たちに続いて走った「加勢人」（かせつと）の子供たち／
 3 一関消防団員の見事なはしご乗りも観客を魅了した／
 4 仮装も見所の一つ

冬の風物詩「一関市・大東大原水かけ祭り」（同保存会主催）は2月11日、大東町大原の商店街で開かれた。

1657（明暦3）年の江戸の大火を機に始まった祭りは、時代を超えて受け継がれ、今年で356年。地元をはじめ県内外から集まった298人の裸男たちが、防火や厄除けを願い、清めの水を浴びて疾走した。

快晴の空の下、朝から仮装手踊り、八幡神社に奉納する大しめ縄奉納修祓式しゅうぼつしきと行進、太鼓山車やみこし行進など伝統行事がにぎやかに繰り広げられた。また、太鼓や鹿踊りの勇壮な演舞などが「天下の奇祭」を盛り上げた。

八幡神社で祈祷を済ませ、出発地点に集合

した白木綿しろもめんの腹巻きにわらじ姿の裸男たちは午後3時、花火と「旗切り」と呼ばれる出発の合図で一斉にスタート。目抜き通りを駆け抜けた。沿道で待ち構える住民は、バケツやたらいの「清め水」を力いっぱい浴びせ、祭りは最高潮に。

初めて参加した岩手県職員の五月女有吉そうとめありよしさん（31）は「すごい熱気だし、人肌の温かさが感じられた。走る人、水をかける人、見る人の垣根がない一体感ある素晴らしい祭り。伝統を守り続ける理由が分かる。ぜひ続けてほしい」と驚いていた。

祭りの運営に協力した県立大東高校の小野寺和夫かずひろ大君（2年）は、「夢中になって水をかけた。将来はぜひ仲間と走りたい」と話していた。

自分たちで木を育てる。
 育てた分だけ使う。
 自給自足の紙づくり。



日本製紙株式会社東北営業支社
 〒980-0022 仙台市青葉区五橋1-1-10(第二河北ビル)
 TEL.022-262-3911代

ホームページ作成・各種データ加工
 クリアファイル・自費出版

国際環境規格ISO14001認証
 プライバシーマーク認証



トーバン印刷株式会社

一関営業所 一関市三関字日照107-5 TEL 0191-31-8808 FAX 23-7315
 本社・工場 一関市千厩町神ノ田30-9 TEL 0191-52-2445 FAX 52-4230
 URL <http://www.makasete.jp> E-mail mail@makasete.jp